平城宮跡資料館　春期特別企画展

「平城宮跡保存運動のさきがけ －大極殿標木建設式120周年－」

平城宮跡は都が京都に遷って以降、長らく田畠になっていました。明治時代、その平城宮跡の保存運動を進めた人物としては、奈良の植木職であった棚田嘉十郎が知られています。しかし、保存運動の口火を切ったのは、地元である当時の都跡村の有志たちによる運動でした。

保存運動のはじまりは、明治34年（1901）４月３日、第二次大極殿上に標木を建設したことです。平城宮跡は明治時代まで一般にはほとんど知られていませんでしたが、研究者によりその保存状態の良さが指摘されます。そこで地元の人たちが保存・顕彰しようとして、自ら標木を建設したのです。

近年、地元の旧家から当時の関係史資料が発見されました。今年は、その標木建設からちょうど120年目にあたります。その節目の年に、標木建設とその前後の史資料を展示し、平城宮跡の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

（文化遺産部　吉川 聡）

発見された明治34年・43年の標木

会期：2021年４月29日（木）～５月30日（日）／休館日：月曜休館（月曜が休日の場合は翌平日）
開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/　お問合せ：☎ 0742-30-6753（連携推進課）

編集　「奈文研ニュース」編集委員会
発行　奈良文化財研究所　https://www.nabunken.go.jp
Ｅメール　koho_nabunken@nich.go.jp
発行年月　2021年３月